



るうてる

2010年
5月
No.749

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町1-1
電話 03-3260-8631
■振替口座 ■ 00190-7-71734
■ウェブサイト ■ http://www.jelc.or.jp
■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp
■発行人 ■ 徳野昌博 m-tokuno@jelc.or.jp
■印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社 (定価1部40円)

「人の望みと喜び」 主イエスの復活

「婦人たちは、…週の初めの日の明け方早く、墓に行った。…輝く衣を着た二人は言った。『なぜ、生きている方を死者の中に捜すのか。あの方はここにはおられない。復活なさったのだ…』」。ルカ福音書24章1節～6節

週の初めの日、明け方早く、婦人たちは墓に向いました。この行為は何かを指し示しているように思いますが、墓は滅びの象徴ですから、人が自ら滅びに向って歩く姿ではないでしょうか。尊敬している精神科のお医者さんが自殺について話をした時、人はだれでも自殺して死んでいくようなもので、よと言われました。お酒を飲みすぎたら体を悪くすることが分かっています。酒は止められませんが、人はいろいろな欲を創り出して、追いかけてやがて自ら欲の虜となり、自滅します。疑いもそうです。一度、人を疑いだすと、疑いは一人歩きして大きく膨ら



み、なかなか止まらずやがては人を自滅へと導きます。自分が犯した罪の重さで自分が沈んで行くのです。海に溺れたときに、私は自分で自分の襟首をつかんで陸に上がることは出来ません。このような無力さと暗さの中で、私たちは、あの婦人たちと同じように、あの方は復活なさったのだという御使いの宣言に出会いま

す。あの方はなぜ、殺されたのでしょうか。あの方に罪はありません。罪は私たちにあります。あの方は私の罪を自分の身に引き受けてくださいました。それがあの方の十字架における死でした。この方が私の罪と悪を克服してくださいます。ですから、私もこの方と共に、これらに正面から立ち向かい戦うことができるのです。そして、やがて最後には、これらは克服されます。もちろん、私自身の力で私が克服するものではありません。そうではなく、私に代わり、この方が私の罪と悪を克服してく



この方は十字架の死から復活され、罪と悪と死を克服されたお方です。この方と私たちキリスト者は洗礼の恵みを通して一つの帯で結ばれています。この方と私は一体とされています。ですから、この方と結ばれている私自身の罪と悪と死も、やがては必ず克服されるのです。

今や、私たちの罪と悪と死との闘いがどれほど激しくても、もはや絶望することはありません。私たちはこれからは、この世に生きる限り、やはり罪を犯し続ける罪人であることにならざるを得ません。罪の結果としての悩みや悲しみ苦しみ、そして最大の課題である死は、相変わらず私につきまとい、避けられません。しかしもうこれからは、安心して悩み、悲しみ、苦しんで良いのです。だって、私のこれらの罪と悪、そして死はこの方の復活により、もう既に克服されているのですから。そのことを信じてよいのですから。

第30回教会音楽祭
テーマ曲の歌詞募集
2011年6月19日、
東京カテドラル聖マリア大聖堂にて開催

- テーマ: 「光」
- 提出先: 〒105-0011 東京都港区芝公園3-6-18 日本聖公会東京教区事務所 礼拝音楽委員会
- 応募締切: 2010年8月31日 (消印有効)
- 問い合わせは 「教会音楽祭」ホームページ、もしくは、徳野昌博 (03-3941-4172) まで。

山間にある集会所の姉妹が、何気ない日常の中から天に召されて年月がたちました。残されたこの句を読ませて頂き、胸が震えるような感動を覚えています。神様が造られた世界を「山すわる」と捕らえたところが、信仰の証だったので。彼女に与えられた信仰によって、この一句が残されました。

「一生の終りに残るものは、集めたものではなくて、与えたものだ」と言った人がいます。集めたものはいつか朽ち果てていく。しかし、信仰によって与えた証は、それが目に見えなくとも人々の心に残るのです。ある映画で「君に与えるものは、愛以外になにも無くなってしまった」というセリフがありました。愛さえあればよいでしょう。イエス様もなにも持たず、愛だけでもって十字架へと進まれたのですから。

さて、私も一句つくってみました。野外礼拝で山にいったときの句です。大きな自然の中で礼拝していたときに、素直に句ができました。この句は残るでしょうか。

夏の風 主の御言葉は 山を越え (柿のたね)

風の道具箱
愛は山から飛んでくる
六月や石見の鯉に山すわる 柴田政子

ルター研究所開設25周年記念チャリティコンサート
3台のオルガンとトランペットの響演
BORGANS & TRUMPET

出演
オルガン 小林英之 (上野学園大学教授)
深井李々子 (東京ルーテルセンター教会オルガニスト)
湯口依子 (日本福音ルーテル市谷教会オルガニスト)
トランペット 山本英助 (国立音楽大学准教授)

2010年5月9日(日) 15:00開演(14:30開場)
日本福音ルーテル東京教会

信徒の声

教会と私

日本福音ルーテル板橋教会 たけうち あけみ 竹内 明美

クリスチャンホームだったので中学の時、牧師の勧めで日本基督教団の教会で受洗しました。でも青年期、そのことで悩みました。はっきりとした理由もなく受けてしまった果たしてよかったですか？って。大人になってから自分の意志で洗礼を受けた人が本当にうらやましかった。

でも転機が訪れました。主人と出会い、ルーテル教会の礼拝に出席したことです。その時、私が聴いたのは「自分ががんばらなくていい。そのま

までもいいんだよ」という神様の声でした。そして小教理問答の学びの時だったでしょうか、「洗礼は神様からのもの、その時は神様が決めるもの」というメッセージを聞いて「ああ、私の手をとってくださったのは神様なんだ」とすごく安心したのを思い出します。

実は私、小さい頃から自分でこれがしたいというものがなく来てしまったんです。育ててくれた祖母が「薬剤師」というルールを私の前に引

いていたんですね。でもある時その道が突然閉ざされ果然となった時、教会学校の校長先生の勧めでキリスト教保育の幼稚園に勤めたのが始まりでした。でも今は感謝しています。この仕事、キリスト教保育に携わってこれてよかったって。自分自身が救われてきたというんでしょか。子ども達と向き合うことを通して私の中で神様の言葉がはつきりしてきたように思います。「あなたが大切だよ」「私が一緒にいて見守っている」。だから、子どもが字を書けるとか絵が書けるように

「あなたがたを襲った試験で、人間として耐えられないようなものはなかったはずですよ。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試験に遭わせることはなさらず、試験と共に、それに耐えられるよう、逃

「あなたを襲った試験で、人間として耐えられないようなものはなかったはずですよ。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試験に遭わせることはなさらず、試験と共に、それに耐えられるよう、逃

牧師の声

私の愛唱聖句

稔台教会牧師 くりはら しげる 栗原 茂



「人はパンだけで生きるものではない」(マタイ福音書4・4) 最初にこの言葉を教えられたのはいつだったでしょうか、記憶は定かではありません。しかし敗戦後の小学生の頃教会学校に熱心に通っていた私の中に、それは 蒔かれた種 でした。「狭い門から入れ」(マタイ福音書7・13) この言葉も同様です。「人の生きるはパンのみに由(よ)るにあらざ」(当時は文語訳でした。それが口語訳になり新共同訳になりましたが、この言葉が私の人生を大きく変えたと思っています。

後に大学生になりよいよ就職を決めねばならない時、この言葉は影響を及ぼしました。青田刈りの時代です。「優」の数から言えば夏休み前に就職は決まっていたはずでした。しかし大学から唯一人の推薦枠で臨んだ秋の就職試験の結果は惨敗でした。堪えました。三次試験まであるのに一次試験で見事振るわれたのです。

その週私は浮かぬ顔をして礼拝に出席したのです。するとその冴えない顔をしていた私に牧師が声をかけました。「栗原さん、あなたがそれほど進みたい就職口をふさがれたということ、神様はもつと別の道を考えているのかも知れませ

るところが、やがて暮れも押し迫る頃に私は就職の内定を手にながらそれを断り、神学校に進む道を選んではしまふのでした。それはひとえに自分で納得のいく人生を、悔いのない人生を生きたいという、私の願いであったと思います。しかしその召命感を背後から支えていたのは、実はこれらの「聖句」でした。按手礼を受けて牧師になって42年になります。来春70歳の定年を間近かにして振り返るとき、ますます「人はパンだけで生きるのではない」「神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」これがまぎれもなく私の人生の座標軸「愛唱句」であると気づかされます。

招聘を受けた教会ではNPO法人学童保育「杉の子会」があります。毎年春になると教会を「居場所」として、数年過ごした学童たちが巣立って行きます。巣立っていく子ども達に求められて「色紙」を書きます。書くことにためらいはありません。必ず決まっています。この聖句を選びます。「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つの言葉で生きるんだよ」。

幼い日に 蒔かれた種は、私の場合がそうであつたように、予想しない形でさまざま人生に影響を及ぼし生き方を変える大きな力になるでしょう。

毎週の週報に書く。簡単なようで大変な作業です。エッセイですから、内容も考えねばなりません。内容は極めてシンプルですが、そこに生活の中の信仰の種を見つけることができず。加納牧師らしい感性、それは彼にしかない、彼しか感じえない感性です。その中にしっかりと信仰の在りかたがしめされています。

私の本棚から

加納寛之 週報エッセイ 「神さまの汽笛」 自費出版



日本福音ルーテル教会の社会福祉施設の紹介 その2

社会福祉法人

東京老人ホーム

社会福祉法人東京老人ホームは、一九九三年(大正一二年)の関東大震災で罹災された高齢者の方を救護に当たったことに始まり、現在は東京都西東京市において、高齢者の方に施設サービス(特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム)と在宅サービス(ヘルパー派遣、ケアプラン作成、看護師派遣)を提供しています。

この間、86年に及ぶ法人の歴史に通奏低音のように流れていたものは「キリスト教精神に則り」という理念です。この理念があったからこそ、その具現化として、日本で最初の「食事サービス」(緊急時通報システムの開発実用化)「居室個室の特別養護老人ホームの建設」が叶ったと言えます。ここには、教会ボランティア



訪問介護に出発するスタッフ



をはじめ多くの方の祈りとお働きがあったことを覚えます。そして、本年3月訪問看護ステーションを開設しました。施設であれ、在宅であれ高齢者の方が望まれる「生活の継続そして地上での最後の時」をケアすることが、法人の理念を支える「キリストの愛の力」によってニーズとして発見された時、このステーションの開設は、職員一人ひとりの願いとなり開設の日を迎えたのです。この働きを通して地域の方々に「キリストの香り」を届けていきたいと思っています。

常務理事 五十嵐利光

開設の日を読まれたイザヤ書52章7節が語る「いかに美しいことか、山々を巡り、良い知らせを伝える者の足は。」この美しい足こそ、地域の方々に「キリストの香り」を伝える職員一人ひとりです。

私たちは、これからも「ご利用者一人一人が人間としての尊厳を保ち、喜びをもって生きることが出来るコミュニティ実現のために、祈り、力を尽くすことが私たちのミッションである」と信じ、この道を歩んでまいります。この私たちの歩みに賛同される方々が、一人でも多くこのミッションに参加されることを切に望みます。(法人のミッションステートメントより)

社会福祉法人

東京老人ホーム

高齢者伝道シリーズ(P2 委員会)

神にゆだねて生きる幸せ



日本福音ルーテル八王子教会会員

諏訪美子 (ケアマネージャー)

「長く生きすぎた、もう死にたいよ」 「それは神様の決めること、僕にはどうしようもない」 在宅のお年寄り、往診にみえたお医者様の会話です。こんなやり取りを聞く度に、ベッドからでも隣人の為にとりなしの祈りをしながら、ふるさとに帰る希望に生きることでできるクリスチャンはなんと幸せ者だと思えます。

介護支援専門員(ケアマネ)という仕事をして、たいという方を訪問し、どのような困難があるのかなどを話し合い、問題解決に役立つ介護サービスを提案し、より快適により自立して暮らせるようプランを立てます。

介護保険は地域のサービスですから、ご近所のヘルパー事業所やデイサービスについて普段から関心を持つことが案外役立ちます。いまだに介護支援を受けることを潔しとしない高齢者もおられますが、少しかかり、自立した生活が可能になると想像してみてもいいです。施設への入所も、安全に自立して生きるため

の方法の一つです。 生きる希望を失くしたお年寄りに出会う度、私は悩みます。現場で宗教の話をすることは出来ないませんが、生きるも死ぬも神様も栄光を表す為であり、私たちは神様のご計画のうちにあるのだと伝えることができたと思えます。私たちがクリスチャンとして、主にあって希望と平安のうちに暮らしていれば、その香りは隣人にもきつと伝わることでしょう。老いの不安な生活の中にある方々と一緒に主にある平安にあずかりたい、いつも祈っています。



春キャンレポート

第18回となる「春の全国ティーンズキャンプ」が、3月29日から31日まで、東京の高尾の森わくわくレジャージで開催されました。 東教区の常議員は、歓迎の意を表すべく、二日目のお昼時にお邪魔し、見学させていただきました。昼食を共にしました。もとは高校だったという施設は、「よく学びよく遊び」には最適のように思いました。

キャンプ80名、スタッフ30名の大所帯でしたが、きちんとグループ分けがなされており、それぞれに兄貴分、お姉さんといった感じのリーダーが張りついて、みんな、いきいき、楽しそうでした。

「フィンランド旅行団 日本の春を満喫！」 フィンランド・ルーテル福音協会の日本伝道10年を記念して22名の訪日団が4月3日成田に。翌日は、桜満開の都内で6教会(東京池袋、大岡山、田園調布、大森、武蔵野、スオミ)に分かれてイースターを祝いました。5日には日本福音ルーテル教会と東教区の歓迎会に臨みました。 今回の来訪者は祖父母の代から日本伝道を支え続けてきた信徒が中心で、その業が日本に根付いていることを見つめることでありました。

7日は初期の伝道地諏訪を訪れ、教会を訪ね、宣教100年を記念して建てられた記念碑を見学しました。飯田では旅館に泊まり、温泉大浴場と日本料理を味わいました。翌8日は、宣教100年を祝った飯田教会で、幼稚園の元気な子供の歌声に迎えられ、一緒に賛美歌を歌い、幼稚園の保護者のハンドベル演奏も聞きました。(木村猛 東教区常議員)



広報室長 徳野昌博

「J3」の動きを終わって」

ジェームズ・カーター氏 (九州学院)

この2年間半はまことにすばしかった。神がこの時間を祝福しました。2年間九州学院で働きました。九学のコピーは敬天愛人です。この二つは大事なことです。敬天(神を愛する)はもちろんですが愛人(人を愛する)は大切です。人間は神様の大好きなものです。この2年間半私はこれを生徒の皆さんに見せてあげました。皆さん神の大きな愛を世界に伝えましょう。

ジョナサン・ラムジー氏 (九州ルーテル学院)

日本をはなれなければならぬことをさびしく思います。日本での2年半の生活は意義深いものでした。日本にきたときはすべてのことに緊張していました。日本の生活は日に日に楽しくなりました。教会とルーテル学校のみなさんのあたたかい人柄に感謝しています。私は神様の世界の多様性に感謝し、神様が体験させてくださったすべてのことに感謝しています。そして、教会とルーテル学校の皆さんと出会わせてくださったことを嬉しく思います。私はこの2年半とても楽しかったです。皆さんもそうであつたらいいと願っています。2年半本当にありがとうございました。

カロン・ハロウェイ氏 (九州学院)

私が日本へ来て、2年半がたちました。熊本で過ごした2年間は長かった感じもしますが今ふりかえると、とても早かったと思います。この2年間は私にとってすばらしく、そしてたくさんの出来事がありました。たくさん授業をさせてもらいましたが、わたしのほうこそ、学んだことがたくさんありました。これから東京で妻と新しい生活を始めます。しかし、J3プログラムのすばらしい思い出は決して忘れません。全てにありがとうございます。

マシュー・ホップファー氏 (九州学院)

あつという間に2年が過ぎました。日本は住みやすい。教会の皆さんは優しい。生徒は明るい。とても良い経験でした。このような仕事、このようなチャンスは珍しいので教会の皆さんに本当に感謝しています。4月からはアメリカに戻らず、熊本YMCAで働くことになりました。また会えば・・・

チャリティー・ホール氏 (文京カテリーナ・本郷学生センター)

このあいだまで、2年間文京カテリーナや本郷学生センターに英語や聖書を教えておりました。皆のためにイエス様が十字架をかかられました。だから、伝道の仕事は大切だと思います。クリスチャンではわれらは宣教師です。キリストの光を映しましょう。



チャリティー・ホール氏 左からジェームズ・カーター氏、ジョナサン・ラムジー氏、カロン・ハロウェイ氏、マシュー・ホップファー氏

『復活の主のみ声を聞いてゆこう!』

故 石居正己師を偲んで

石田順朗(引退教師)



戦後間もなく再開されることになった鷺宮の神学校へ初入学を志願し、再興の途についたルーテル教会教

職への献身を誓い合いながら、神学校生活を、それこそ起居を共にして過ごした一人として、石居正己牧師召

天の訃報には、唯ただ、感慨無量。

彼は、入学当初より持病の喘息と闘いながらも(魚の食べ方名人芸はさておき)まさに寝食を忘れるような勉学への精進で、われわれ神学生仲間には先達的な活力を与えてくれた。一九五二年、卒業に見事な『教会の単一性』を書き上げ、同題での東京教会で行われた卒業記念礼拝説教は、今なお記憶に留まっている。

伴う神学教育「聖信と小児陪餐」、『ルターにおける礼拝の神学』、『ディアコニア入門』、『キリスト教信仰と社会福祉の働き』等々に裏打ちされた信徒教育に徹し、『教会とはだれか』の著作に到った先生を、伝道牧会、神学、教育者の賜物を豊かに兼ね備えた同労の友として覚え、60年にも亘って交誼に与つたこの身の幸いを神に深く感謝している。

京都市の葬儀に遺憾ながら列席できなかったが、昨秋「神学校創立百周年記念祭」で、先生と美智夫人を交えて昼食を共に寸時ながら久方ぶりの旧交を暖め得たことは有り難かつた。その後二三月、先生がかつて一年間牧した「武蔵野教会」の「待降節第二主日」礼拝説教に招かれた折、『石居正己牧師説教集』(復刻版)を戴いた。所収の一九六八年「三位一体(聖霊降臨)後第一六主日」での礼拝説教「よみがえりであり命である」を、今読み直している。故岸本英夫大東大教授の著作『死を見つめる心』に言及しての説教のおわり、「生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。わたしを信じる者は、たとい死んでも生きる。この二つのみことばは、表面的にいえ

ば矛盾したことばである。しかし、それだからこそ生きていくこと、死ということ、信じるということの、型どおりの意味でなく、主が示される内容を考えてゆかなくてはならない」に聞き入っている。続く結びの言葉は、キリスト・イエスの福音宣教へ実直にその生涯を徹した神学者石居正己牧師の立派な遺言ともなるう、「生きていても、墓の中にあつても、主のみ声を聞いてゆかねばならない。」

小学5・6年生は 広島に集まろう!

キャンパススタッフ募集中!

お問い合わせは松本奈美(キャンパス)まで
Tel.& Fax. 078-691-7238 (神戸教会)
E-mail jalc-kobe@earth.ocn.ne.jp

2010年8月3日(火)~5日(木) 会場・広島教会
参加費10000円 交通費別(補助あり)

ルーテルマザーズもキャンパス

第12回

来んせい くる peace くら

主催: 平和を実現する人々は、幸いである。 (マタイによる福音書5章9節)

0-7023333333-0202020
http://www.jalc.net/~kokusa/index.html

日本福音ルーテル教会教育推進部(子ども部門)・日本福音ルーテル社会福祉プログラム

各教区総会で 常議員が決まりました

【長】教区長副【副】副教区長【書記】伝【伝道】教【教育】伝【伝道】教育【教社】教育【会】会【財】財【務】信【教区】選出信【常議員】をあらわします。】

北海道教区

長・岡田薫/副・加納寛之
/書・加納寛之/会・大賀隆史/伝・須藤清/教・井上律子/社・大賀隆史/財・加納寛之/信・井上律子(恵み野)

東教区

長・大柴譲治/副・杉本洋一/書・安井宣生/会・木村猛/伝・中島康文/教・徳野昌博/社・田島靖則

東海教区

長・田中博二/書・内藤新吾/会・梅村隆二/伝教

西教区

長・永吉秀人/副・松本義宣
/書・松本義宣/会・石田博美/伝・狩野俊明/教社・沼崎勇/財・滝田浩之/信・石田博美(広島)

九州教区

長・濱田道明/副・野村陽一
/書・野村陽一/会・山本光/伝教・小泉基/社・谷口象二郎/財・山本光/信・山本光(箱崎)

※東海教区では、伝道教育部長は、宣教師(教職)(信徒)という役割です。

※社会部長:北海道・東社会奉仕部長:東海・社会・厚生部長:西・社会福祉部長:九州

「住所変更のお知らせ」

■重野 信之先生
住所:〒463-0031
愛知県名古屋守山区本地が丘1301番
バンベール本地が丘203

■山之内正俊先生
住所:〒860-0072 熊本県熊本市花園6-4-22
電話:096-327-1978

■早川 顕一先生
牧師館住所:〒811-0201
福岡県福岡市東区三苫2-3-5
教会住所:〒811-0201
福岡県福岡市東区三苫2-3-5
日本福音ルーテル聖ペテロ教会
電話 FAX:092-1606-2198